

1,都市の発達

ムスリム勢力→アジア、アフリカ、ヨーロッパに拡大。

共通語→()1語 陸海の交通網→イスラム世界を形成

貨幣経済の発達→7世紀末ウマイヤ朝で金貨❖a・銀貨の鑄造開始。

❖a→「()2金貨」693年ダマスカスでイスラム初の金貨を製造。金はサハラ砂漠の南のガーナ王国、エジプトの南のヌビアからもたらされた。マムルーク朝期まで。

都市→政治拠点・商業・手工業の場・遠隔地交易・学問・芸術の中心。

┌中心に大モスク。隣接してマドラサや()3=市場、隊商宿=キャラバンサライ

└公共施設→カリフ、スルタン、高官、富商の寄進により建設・運営。

⇒()4制度による都市の社会基盤の整備。

イスラム文明→ギリシャ・ローマ、インド、イラン、トルコ、北アフリカ等の文明を融合して発展。



2,イスラム文化

┌世界的文化を形成→古代オリエント、ヘレニズム、インド、ビザンティン、中国文化を吸収

└大都市→マドラサ=「()5学院」を持つ文化センター

①学術

A,イスラム諸学=()6の学問→アラビア言語学、詩学、神学、法学、歴史学

「()7」→イスラム知識人。各地を巡り、シャリーアの解釈者として台頭。

()8(1058~1111)→スンナ派の代表的ウラマー。ホラーサーン出身。ニザーミーヤ学院教授。

アリストテレス論理学をイスラム神秘主義=スーフィズムにとり入れる。著作は西欧でも哲学入門書。

ラシードウッディーン(1247~1318)→ガザン=ハンの命で「()9」を編纂。

モンゴルのほか、古代、中国、インド、フランク等の歴史。

イブン=()10(1332~1406)→中世イスラムを代表する歴史家、思想家。「歴史序説」

チェニス出身で北アフリカ、イベリアの王朝(ナスル朝)に仕える。アサビーヤ論(部族・集団の連帯意識)。

B,()11の学問→()12語文献をアラビア語訳。アッバース朝の時代。

『()13の館』→7代カリフ、マアムーン(位813~833)など歴代カリフが主導。

イブン=()14(980~1037)→サーマーン朝のブハラの医学・哲学者。「治癒の書」

アリストテレスを研究し、イスラム哲学を体系化。「医学典範」ヒポクラテスを参考に医学を体系化。

12世紀ラテン語に訳され17世紀まで西欧の大学で使用。ラテン名アヴィケンナ。

イブン=()15(1126~98)→コルドバ生まれ。ムワッヒド朝の法官、医師。医学百科事典編集。

アリストテレス哲学の注釈。ラテン語訳される。ラテン名アヴェロエス。

・数学 ┌「()16数字」→インドから入った算用数字を改良。

└インドで発見された10進法や()17の概念を発展させる⇒「ALGEBRA」=()18学

フワーリズミー(780~850)→アッバース朝の科学・数学・天文学者。ホラズム出身。マアムーンの招きでバグダードへ。著作はラテン語訳され西欧で500年使用。数学の解法・手順=「()19」の語源。

・天文学・暦学→バグダード、カイロ、コルドバに天文台⇒()19説復活

「天文観測器」=()20

ウマル=()21(1048~1131)→セルジューク朝の詩人、学者。四行詩「ルバイヤート」

イラン=イスラム文化の代表者。数学、天文学に通じ、三次方程式の解法を提示。また「グレゴリオ

歴」(1582)より正確な「()22暦」(1079)を作成。

・地理学→地図、地誌。

イブン=()23(1304~68)→モロッコ生まれのイスラム法学者、旅行家。

中央アジア、インド、スマトラ、ジャワを経て1346年中国(元)の泉州、大都を訪問した。マリ王国にも滞在。1355年「三大陸周遊記」を記す。

・()24→「ALCHEMY」=アラビア語=から。蒸留・濾過などの実験法発達←()25術

・物理学→()26の反射、屈折の論理。

②文芸・建築・美術

・文学→「()27」インド説話の影響。8世紀~16世紀に完成。

「ルバイヤート=4行詩集」ウマル・ハイヤームの詩集

「シャー=ナーメ」=()28 フィルドゥーシー(934~1025)のイラン民族叙事詩

ペルシャの神話、歴史。ササン朝までの歴代50人の王の治世を描く。

・寺院建築→寺院=モスク⇒円屋根=()29と光(尖)塔=()30

・装飾=()31→植物、アラビア数字を幾何学的に配置。

・絵画=()32→写本の挿絵など。細密画。

・灌漑技術→西アジアの運河開削、地下水路=()33開掘、揚水車

→北アフリカ、イベリアに広まる。

・中国で発明された()34・()35・羅針盤を改良

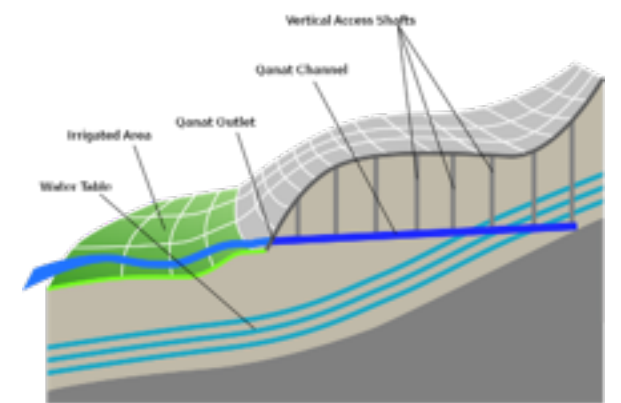
→ヨーロッパへ伝えられ()36を発生させる。



イブン=バットウータ



イブン=スィーナ



カナート(地下水路)

「一壺の紅の()、一巻の歌さえあれば、
それにただ命をつなぐ糧さえあれば、
君といっしょに、たとえあばら屋に住もうとも、
心は王侯の栄華にまさる、愉しさよ」

ウマル・ハイヤーム「ルバイヤート」



セリミエ・モスクのアラベスク(トルコ)



タージ・マハル(インド・アグラ)

- ・紙 ・火薬 ・代数 ・錬金 ・化学 ・外来 ・王書 ・集史 ・固有 ・地動 ・知恵
- ・ドーム ・ウラマー ・スーク ・ワクフ ・アラビア ・ギリシャ ・ルシュド ・カナート
- ・スィーナ ・ミナレット ・アラベスク ・ハイヤーム ・ガザリー ・ディナール
- ・バットウータ ・ハルドゥーン ・ジャラーリー ・ミニアチュール ・アストロラーベ